

タイ中等教育における日本語学習動機と学習行動との関係 ——積極的に学習行動を行う上位群と下位群の比較——

吉川 景子

1. はじめに

タイの日本語学習者数は世界第7位(71,083人)で、そのうち約5割を初等・中等教育(243機関、31,679人)が占めている(国際交流基金2006)。1981年に後期中等教育(高校)の第二外国語の一つとして正式に日本語が採用され、それ以降、確実に中等教育段階で日本語教育が広まっている。では、高校生はどのような動機を持って、どのように日本語学習に取り組んでいるのだろうか。タイの高校生の日本語学習への学習動機や学習行動について調査し、その関係を明らかにすることによって、今後のタイ中等教育における日本語教育の在り方を検討する参考資料になると考える。

タイの日本語教育における動機づけ研究には成田(1998)がある。成田(1998)は大学生の動機と成績の関係について調査し、その結果、「統合的志向」が強い学習者の成績が高く、「利益享受志向」、「誘発的志向」が強い学習者の成績が低い傾向にあることがわかった。

学習動機と学習行動についての先行研究には李(2003)、吉川(2010)が挙げられる。李(2003)は韓国人学習者を対象に、動機、学習への取り組み方(すなわち学習行動)、日本語能力の自己評価の関連性を検討した。その結果、動機と学習への取り組み方、学習への取り組み方と日本語能力自己評価には相関が認められたが、動機と日本語能力自己評価には相関が認められなかった。つまり、学習者は動機づけによって自分の日本語能力を評価するのではなく、普段の学習行動を通して日本語能力を評価するということがわかった。吉川(2010)はタイの高校生の学習動機と学習行動の関係を調査し、学習動機には「日本・日本人・日本文化への興味、あこがれ」、「実用的志向」、「誘発的志向」の各因子を認め、各因子が学習行動に及ぼす影響、および、各動機が学習行動に及ぼす影響について分析している。

本研究では、吉川(2010)で対象とした高校生において、積極的に学習行動を行っている学習者とそうでない学習者との間にどんな動機の差があるのか、動機と学習行動との関係について検証する。

2. 調査の概要

2.1 目的

タイの高校生の日本語学習動機と学習行動について、積極的に学習行動を行っている学習者とそうでない学習者との間に、動機の構造においてどんな差があるのかを分析し、動機と学習行動との関係を考察する。

5	0.038851	33	0.021066	10	0.006513	20	-0.13239
3	0.035833	17	0.007439	1	-0.01631	14	-0.15114
15	-0.0394	16	0.006406	19	-0.02691	5	-0.1727
28	-0.04131	21	-0.03474	18	-0.04996	35	-0.18101
9	-0.05999	9	-0.03959	9	-0.06521	36	-0.24059
32	-0.11331	28	-0.06248	28	-0.09872	22	-0.29358
寄与率	12.00%		7.33%		6.52%		3.87%

3.1.2 Low 群の日本語学習動機

結果を表 2 に示す。第 1 因子は「(29)将来日本で働きたい」、「(11)将来日本で勉強したい」、「(6)日本に住んでみたい」、「(31)日本人と親しくなりたい」、「(34)日本を旅行したい」、「(4)日本の会社に就職したい」、「(14)日本人の友達とコミュニケーションをとりたい」、「(2)日本人の友だちがほしい」、「(36)日本人と会話がしたい」、「(27)日本人の友達とメールや手紙のやりとりをしたい」のような日本へ行きたい、日本人と関わりたいという直接体験を希望するものが認められた。そこで第 1 因子を「直接体験」因子と命名する。Low 群の学習者は日本語を学習することによって何か直接体験ができるだろうと思い、日本語を選択していると言える。

第 2 因子は「(16)現在の生活で役に立つ」、「(35)将来の仕事に役立つ」、「(17)日本語は世界の言語の中で重要な言語のひとつだから」、「(20)将来のキャリアのために有利」、「(24)大学の入学試験のために必要」のような日本語が実用的に役に立つという動機が認められた。そこで第 2 因子を「実用的志向」因子と命名する。Hi 群の第 3 因子と同じタイプの因子である。

第 3 因子は「(19)日本の歌が歌えるようになりたい」、「(10)日本の歌の歌詞を知りたい」、「(23)日本の雑誌や漫画が読めるようになりたい」、「(26)日本の映画、テレビ番組が好き」のようなポップカルチャーへの興味を中心とするものが認められた。そこで第 3 因子を「ポップカルチャーへの興味」因子と命名する。Hi 群の第 1 因子ではポップカルチャーも含めた広い範囲での文化相互理解が認められたが、Low 群ではポップカルチャーへの興味だけで因子を構成している。

第 4 因子は「(28)数学や理科など、ほかのコースは入れなかったから」、「(21)仲のいい友だちが日本語を選んだから」の 2 項目からなり、日本語学習自体に動機がないものである。そこで第 4 因子を「誘発的志向」因子と命名する。Hi 群の第 4 因子と同じタイプの因子である。

Hi 群、Low 群ともに平均値が高いものから上位 3 項目、下位 2 項目は同じ結果となった。上位 3 項目は「(1)日本語の授業に出席している」、「(8)日本語の授業で一生懸命先生の説明を聞いている」、「(18)自分で考えて宿題をする」であった。両群とも授業や宿題といった高校生活の基本事項について積極的に行動していることがわかった。下位 2 項目は「(16)自分の日本語能力を試す機会(日本語コンテストや日本語能力試験など)があれば、積極的に参加している」、「(10)日本人に会ったら日本語で話しかけてみる」であった。今回の Hi 群、Low 群別結果では、学習行動の傾向に違いが認められなかった。

4. まとめと今後の課題

タイの高校生の日本語学習動機と学習行動について調査し、両者の関係を Hi 群、Low 群別に考察した。Hi 群の学習動機には「日本人・日本文化への興味、相互理解」、「将来」、「実用的志向」、「誘発的志向」の 4 つの因子が見られた。Low 群の学習動機には「直接体験」、「実用的志向」、「ポップカルチャーへの興味」、「誘発的志向」の 4 つの因子が見られた。

日本語学習動機各項目と学習行動に関して、Hi 群はまず日本という国・文化・日本人に興味を持ち、日本語学習のきっかけとなり、それが実際に学習行動につながっていることが明らかになった。また中学で学習経験があり、高校でも日本語の勉強を続けている学習者は動機を維持していることが示唆された。Low 群は日本語の勉強自体に興味を持っていること、日本語は簡単そうだ、と思っている学習者が行動に移す傾向があることがわかった。

学習行動は、Hi 群、Low 群ともに授業や宿題などの基本事項について積極的に取り組んでおり、逆に日常的でないもの、例えば、自分の能力を試す機会や日本人に話しかけるなどのチャンスが限られていることについては自己評価が低くなっていることがわかった。

本研究では学習動機と学習行動について Hi 群、Low 群別に検討した。学習動機と学習行動が学習成果にどのような影響を及ぼすのかについては、今後の課題としたい。

(1)因子分析にはエクセル統計 2006 を使用した。因子は固有値が 1.00 以上のもの、因子付加量が 0.40 以上のものを採用した。

(2)重回帰分析にはエクセル統計 2006 を使用、説明変数の選択方法は変数増減法を採用した。

参考文献

国際交流基金「日本語教育国別情報 2009 年度 タイ」『国際交流基金』

<<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2009/thailand.html>> 2010 年 3 月 11 日

成田高宏(1998)「日本語学習動機と成績の関係—タイの大学生の場合—」『世界の日本語教育』

第 8 号、国際交流基金日本語国際センター、pp.1-12

2.2 方法

2.2.1 調査実施年月

2009年6月から7月にかけて実施した。新学期が始まり、クラスとして落ち着いたと考えられる1、2か月後に行なった。

2.2.2 「日本語学習動機」と「日本語学習行動」を調べる質問紙

日本語学習動機についての質問項目は縫部ほか(1995)、成田(1998)、李(2003)などを参考に36項目作成した。

日本語学習行動については李(2003)を参考に20項目作成した。日本語学習に直結するものだけでなく、高校生が日常生活の中で日本語に接する可能性があり、学習動機と関連があると考えられる場面も項目に取り入れた。質問紙は紙幅の都合上、日本語学習行動についてのみ、本稿末尾に資料として示す。

各項目への回答は、日本語学習動機については「4 とてもそう思う」「3 そう思う」「2 そう思わない」「1 全然そう思わない」、日本語学習行動については「4 いつも行っている」「3 よく行っている」「2 時々行っている」「1 全然行わない」の4件法で求めた。質問紙はタイ語版を使用した。

2.2.3 調査対象者

本研究では日本語科目の位置づけ、教材、教員などの学習環境の差によって生じる学習動機や学習行動の差を少なくするため、次の3つの条件を満たす高校を対象とした。

- (1)週4コマ以上の専門科目として日本語を開講している高校
- (2)タイ中等教育用教科書『あきこと友だち』(国際交流基金バンコク日本文化センター、紀伊國屋書店(タイランド))を使用している高校
- (3)タイ人日本語教員がいる高校(日本人日本語教員のみは対象外とした)

全国の高校の中から地域に偏りがでないよう、ランダムに51校選び、大部分の生徒が初めて日本語を学習する高校1年生を対象とした。その結果、34校、1187名の回答が得られ、その内、上記条件を十分に満たす対象校は30校、1072名であった。85名は記入が不完全だったため、最終的に30校、987名(男249名、女738名)を分析の対象とした。

各対象者の行動得点(学習行動についての質問紙20項目の得点)を合計し、総得点の高いものから上位300名を、積極的に学習行動を行っている上位群(以下、Hi群)、低いものから下位300名を下位群(以下、Low群)とした。

2.2.4 調査手続き

質問紙を各校に配布、または郵送し、各校の教員が授業中に学習者に質問紙を配布し、記名で回答させた。各校の教員には書面で「研究以外の目的には使用しない」旨を、学習者には質問紙上で「研究目的のものであり、学校の成績とは関係がない」旨を教示した。

3. 結果と考察

表 1 バリマックス回転後の因子負荷量(Hi 群)

項目	第 1 因子	項目	第 2 因子	項目	第 3 因子	項目	第 4 因子
27	0.602635	11	0.777017	16	0.573559	28	0.597631
19	0.596301	29	0.692964	35	0.515171	9	0.518849
10	0.595537	6	0.514816	15	0.465059	21	0.4648
26	0.58071	4	0.446165	17	0.430457	32	0.327362
18	0.549144	7	0.327443	5	0.390195	12	0.181054
2	0.547343	12	0.317009	22	0.387104	33	0.156258
25	0.517822	14	0.312081	30	0.369475	13	0.125937
23	0.490054	22	0.294497	33	0.293293	18	0.112038
33	0.482246	19	0.273528	24	0.285427	17	0.109163
31	0.467093	34	0.267983	32	0.284894	24	0.076478
8	0.445097	35	0.26611	20	0.284207	29	0.068284
13	0.396497	30	0.264668	13	0.274907	4	0.059596
36	0.380572	31	0.23448	36	0.255761	15	0.033818
7	0.370447	10	0.220469	4	0.24473	16	0.004574
1	0.353872	20	0.218885	25	0.24123	27	-0.00839
14	0.322519	23	0.191832	14	0.212545	25	-0.00936
22	0.23328	24	0.185084	27	0.202432	8	-0.01347
6	0.215631	2	0.182937	3	0.200264	2	-0.02079
30	0.201416	18	0.169791	29	0.197622	19	-0.02903
11	0.198413	32	0.164766	12	0.191262	3	-0.03374
12	0.198171	36	0.153368	8	0.149605	31	-0.0469
34	0.196322	1	0.144666	31	0.142237	1	-0.06226
29	0.195303	3	0.137079	23	0.13153	26	-0.06285
17	0.194167	27	0.089224	26	0.11245	23	-0.07468
20	0.189138	5	0.0774	11	0.103265	6	-0.08889
16	0.173896	13	0.075772	6	0.098678	11	-0.09551
35	0.16358	25	0.065446	7	0.068659	10	-0.098
4	0.13893	15	0.062604	34	0.067466	7	-0.0986
24	0.093754	26	0.047332	2	0.050696	30	-0.10415
21	0.071235	8	0.023315	21	0.026161	34	-0.13168

表 2 バリマックス回転後の因子負荷量 (Low 群)

項目	第 1 因子	項目	第 2 因子	項目	第 3 因子	項目	第 4 因子
29	0.725601	16	0.593486	19	0.703365	28	0.606259
11	0.691864	35	0.568201	10	0.638412	21	0.450914
6	0.655575	17	0.519056	23	0.525673	9	0.390027
31	0.597318	22	0.50374	26	0.439451	24	0.296121
34	0.55788	36	0.454482	1	0.424254	13	0.25267
4	0.489834	20	0.427167	27	0.347932	12	0.178117
14	0.48012	24	0.426791	7	0.343473	8	0.157668
2	0.458165	26	0.378481	18	0.32518	11	0.137872
36	0.456114	8	0.358293	8	0.307743	31	0.137606
27	0.412299	25	0.347866	30	0.278192	32	0.124465
30	0.376566	14	0.33998	33	0.263084	10	0.120678
7	0.364195	33	0.339827	13	0.254023	27	0.11245
18	0.354409	12	0.31413	22	0.24996	29	0.112103
35	0.302728	5	0.309751	25	0.237367	33	0.097577
20	0.293251	15	0.305031	14	0.221146	19	0.09287
33	0.281763	13	0.299786	6	0.212868	3	0.076749
23	0.245039	27	0.281694	20	0.210609	25	0.071068
25	0.230154	30	0.267512	31	0.204484	17	0.0563
1	0.226262	4	0.265052	2	0.20097	18	0.028097
26	0.223984	23	0.244937	34	0.163734	4	0.017369
22	0.221261	3	0.22062	11	0.16329	2	0.002452
8	0.208786	7	0.197179	12	0.15461	14	-0.00704
24	0.205301	29	0.194672	36	0.141706	15	-0.01074
17	0.148481	2	0.190987	5	0.141011	6	-0.03398
19	0.143519	31	0.188546	17	0.132795	16	-0.04768
13	0.14336	11	0.141454	24	0.131079	22	-0.05781
5	0.142981	34	0.119136	35	0.124221	30	-0.06009
21	0.114327	10	0.103981	16	0.099568	1	-0.07415
16	0.103966	21	0.059903	21	0.095522	36	-0.08282
10	0.101046	1	0.045372	29	0.093466	23	-0.08501

3.2.2 Low 群の日本語学習動機各項目と学習行動の関係

結果を表 4 に示す。動機項目「(22)日本語の勉強に興味がある」、「(3)日本語は簡単そうだったから」が 1%水準で、「(9)特に理由はなく、科目の中に日本語があったから」が 5%水準で有意となった。項目(22)がプラスに、項目(9)がマイナスに行動に影響を及ぼしていることから、Low 群の学習者にはまず日本語の勉強自体に興味を持ってもらうことが必要である。3.1.2 より Low 群が「直接体験」「実用的志向」「ポップカルチャーへの興味」という学習動機因子を持つことから、どのように日本語学習への興味に結びつけるかを考えるのも一つの方法である。また、日本語は難しい、自分には無理だ、わからない、と思わせないように、ステップを踏み、学習者の理解を確認しながら授業を進めていくよう、授業をデザインすることも大切である。

表 4 重回帰式(Low 群)

項目	標準偏回帰係数	判定
22	0.2443	**
3	0.1603	**
9	-0.1132	*
決定係数	0.1481	
重相関係数	0.3848	

**： $p < .01$, *： $p < .05$

3.3 学習行動

20 項目の学習行動について 4 段階で自己評価させた。Hi 群、Low 群別の結果を表 5 に示す。

表 5 日本語学習行動平均値 ()内は標準偏差

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平均	3.95	3.41	3.26	3.51	3.28	3.44	3.30	3.75	3.55	2.92
Hi 群	(0.23)	(0.63)	(0.70)	(0.58)	(0.63)	(0.67)	(0.67)	(0.48)	(0.62)	(0.93)
平均	3.75	2.31	2.06	2.79	2.25	2.16	2.08	2.96	2.37	1.49
Low 群	(0.56)	(0.59)	(0.68)	(0.74)	(0.63)	(0.70)	(0.71)	(0.66)	(0.83)	(0.64)
項目	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
平均	3.26	3.49	3.48	3.08	3.02	2.67	3.30	3.70	3.26	3.44
Hi 群	(0.65)	(0.60)	(0.60)	(0.77)	(0.68)	(1.00)	(0.77)	(0.51)	(0.69)	(0.62)
平均	2.17	2.33	2.25	1.68	1.96	1.40	2.00	2.83	1.84	2.21
Low 群	(0.69)	(0.69)	(0.68)	(0.66)	(0.59)	(0.62)	(0.79)	(0.80)	(0.67)	(0.75)

12	0.091163	18	0.043764	15	-0.00771	35	-0.09126
3	0.044048	19	0.035034	9	-0.00936	7	-0.11093
9	0.0071	9	0.01417	4	-0.01097	26	-0.11458
15	-0.00338	6	0.00422	3	-0.08035	34	-0.13604
32	-0.06372	28	-0.0092	28	-0.10858	5	-0.24175
28	-0.06845	32	-0.03835	32	-0.18687	20	-0.26523
寄与率	11.96%		9.18%		7.75%		3.52%

3.2 日本語学習動機各項目と学習行動の関係

36 項目の日本語学習動機のうち、特定の動機が学習行動に影響を及ぼしているかどうかを Hi 群、Low 群別に調べた。各項目間の相関関係が十分に低いことを確認した後で、各動機項目に対する各学習者の 4 段階スケールの得点を説明変数、学習行動得点を目的変数として、重回帰分析を行った⁽²⁾。

3.2.1 Hi 群の日本語学習動機各項目と学習行動の関係

結果を表 3 に示す。動機項目「(7)日本・日本文化に興味がある」、「(33)日本人の考え方が知りたいから」、「(32)中学で日本語を勉強したことがあるから」が 5%水準で有意となった。やはり、学習目標言語である日本語を使っている国・文化、日本人に興味を持っている学習者が実際に行動する傾向があることがわかった。中学で日本語学習経験があり、高校でも日本語を選択した学習者は中学で得られた日本語学習自体への興味、日本への関心が高校生になっても継続していると考えられる。また、学習者がタイにいながら日本を体験するためには、教師が地域の日本人とのネットワークを利用し、相互交流を行う機会を持つことも有効である。お互いの文化・習慣・考え方について受信、発信ができるビジターセッション、日本語キャンプなど、できる範囲で日本・日本人と接する機会を作ることによって、学習行動に結びつく可能性がある。

表 3 重回帰式(Hi 群)

項目	標準偏回帰係数	判定
7	0.1399	*
33	0.1396	*
32	0.1216	*
決定係数	0.1608	
重相関係数	0.4010	

*: p<.05

縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩(1995)「大学生の日本語学習動機に関する国際調査—ニュージーランドの場合—」『日本語教育』第 86 号、日本語教育学会、pp.162-172

吉川景子(2010)「日本語学習動機と学習行動との関係—タイの高校生の場合—」『日本語教育論集』第 19 号、姫路獨協大学大学院言語教育研究科日本語教育コース、pp.41-48

李受香(2003)「第 2 言語および外国語としての日本語学習者における動機づけの比較—韓国人日本語学習者を対象として—」『世界の日本語教育』第 13 号、国際交流基金日本語国際センター、pp.75-92

資料 質問紙項目(日本語版)(紙幅の都合上、日本語学習行動について、項目のみ記載する。)

2. あなたは今、次に書かれている行動をどのぐらいしていますか。

- (1)日本語の授業に出席している
- (2)日本語の授業中、先生の質問に答えている
- (3)インターネットで日本の興味のあることについて調べる
- (4)宿題が出たら、提出期限を守る
- (5)日本語の授業で積極的に発表している
- (6)タイ人のクラスメートと授業以外でも日本語で話す練習をする
- (7)日本語の学習方法について自分で工夫している
- (8)日本語の授業で一生懸命先生の説明を聞いている
- (9)日本語で日本の映画やドラマを見るようにしている
- (10)日本人に会ったら日本語で話しかけてみる
- (11)テストや宿題の間違いを後で調べる
- (12)日本語の授業で一生懸命友達とペアやグループで練習している
- (13)日本語の勉強で難しくてわからないことがあったら、解決しようと努力する
- (14)授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする
- (15)うちで日本語の予習や復習をしている
- (16)自分の日本語能力を試す機会(日本語コンテストや日本語能力試験など)があれば、積極的に参加している
- (17)日本語の歌の歌詞の意味をチェックしたり、歌ったりする
- (18)自分で考えて宿題をする
- (19)先生(タイ人でも日本人でも)と日本語で話す練習をする
- (20)わからない単語や文があったとき、教科書や辞書で調べる